

A photograph of three construction professionals—two men and one woman—wearing hard hats and safety vests, standing on a construction site and reviewing a set of blueprints. The background shows a concrete structure under construction with large pillars and beams. The scene is brightly lit, suggesting a sunny day.

現場実態の把握から始める安全性向上施策

大規模インフラと顧客基盤を支えるIT

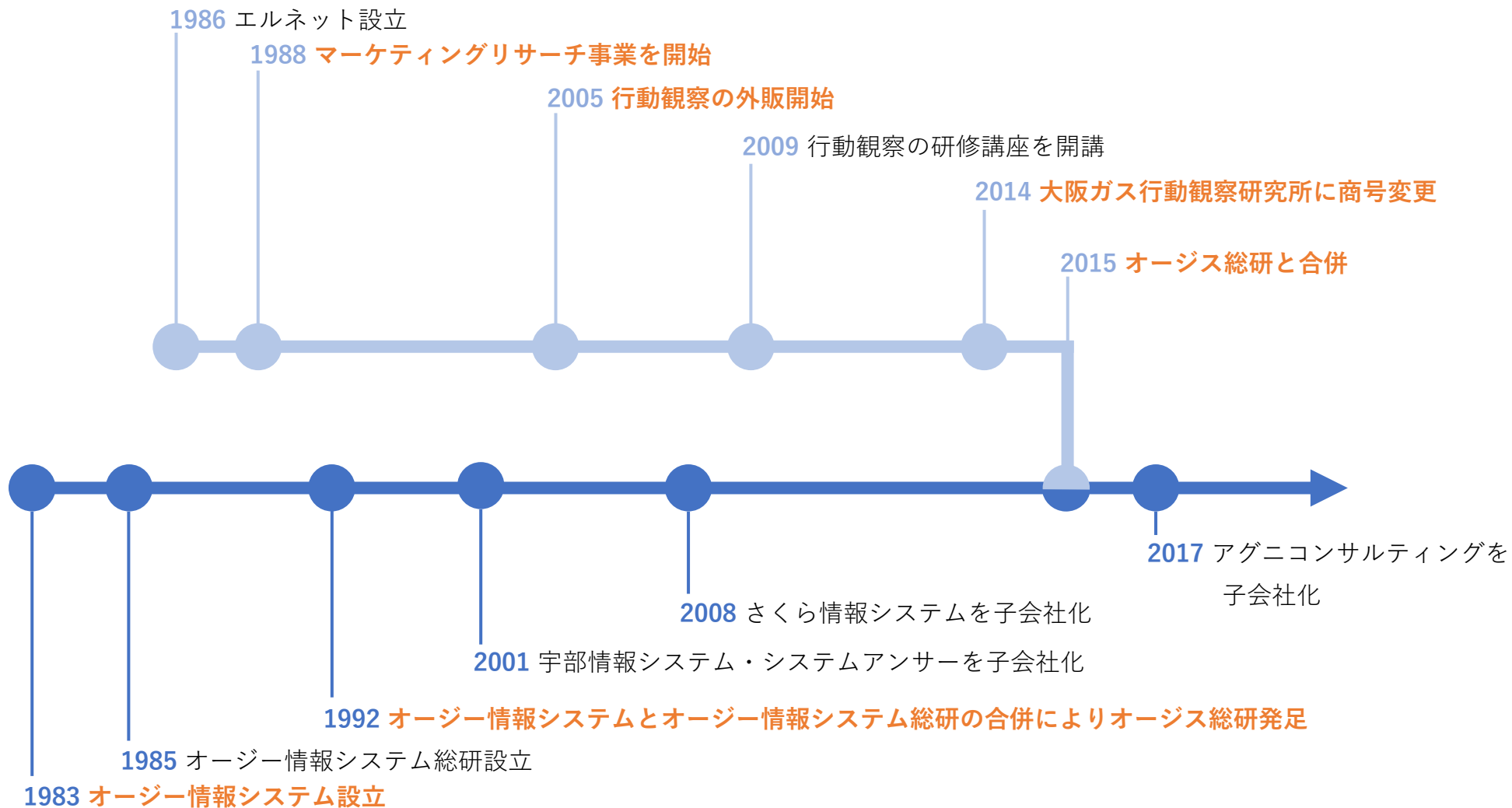
+

行動観察と現場実態把握の実績

企業名
株式会社オージス総研

設立
1983年6月29日

代表
吉村 和彦



様々な事故対策によって重大事故は減りつつあるものの、ちょっとした事故が無くならない



根本的な事故原因が分からず
場当たりの施策が乱立し、
現場に負荷がかかる

- 事故後の報告を早急に実施する必要があり、根本的な事故原因の究明ができず原因を解消できていない
- 積みあがった事故対策で現場業務が却ってひっ迫し、リスク認識を阻害している



ルールや資料を整備しているが、
現場の行動変容に至っていない

- 事故対策としてルールや資料の修正・追記をしているが、注意点が増えポイントが分かりづらくなっている
- 書類は修正したが日々の業務の変更を落とし込まず、行動変容されていない



ノウハウが整備されておらず
安全管理が属人化しており、
日によって安全性がばらつく

- 現場の安全を担っているベテランのノウハウが共有されておらず、ベテランの引退後に継続して安全性を保つ必要がある
- 現場OJTを中心にしているため、誰が・何を・どのようにして安全を管理するのか整備されていない

適切な対策を検討するためにまず実施すべきこと



根本的な事故原因が分からず
場当たりの施策が乱立し、
現場に負荷がかかる



ルールや資料を整備しているが、
現場の行動変容に至っていない



ノウハウが整備されておらず
安全管理が属人化しており、
日によって安全性がばらつく

「実際はどうか」という現場実態の客観的な把握が必要

客観的な立場で実態把握をしない場合、経験がある故のバイアスによって既知の考えの答え合わせのようになり、施策立案に活かせない懸念がある



- 既存ルールに則っているかのチェックをしてしまい、根本的な原因に行きつくことができない
- 経験や施策を前提としてしまい、実態把握ではなく答え合わせのようになる



- 業務フローを知っていることで、書類上の手順と実際に現場で行われている業務の相違点に気がつきにくくなる



- 単に質問してもノウハウは出てこないため、引き出すための聞き方を知っている必要がある
- 聞かれても言葉にできないノウハウは多数あり、第三者視点で観察しなければ拾うことができない

本資料にご興味をお持ちいただけましたら、フルバージョンのダウンロードをお申し込みください。一度お申し込みいただくと、行動観察に関連した掲載資料をすべてダウンロードいただけます。

お申し込み